

「環境化学計測学－環境問題解決へのアプローチ法としての環境測定－」

堀 雅宏 著

A5版, 260ページ, ¥3700
(共立出版株式会社, 2006年3月25日発行)

環境関連の研究や開発を進める際、計測・測定は重要なファクターを占める。しかしながら建築の立場の人間が環境分野の仕事に従事する際、一番ネックになるのが計測・測定である。JISやマニュアルは具体的な測定方法などが示されるので実務者にとっては役立つものの、測定の概念が不十分である場合が多い。また、化学の分析書は専門的で学ぶためには有効であるが、実際の業務へ展開させるのが困難になる場合もある。

本書はこれらの点を補充すべく適切な構成・内容となっている。環境問題の概要、環境計測の基礎は勿論のこと、測定機器の検出原理や精度管理を説明している。更に、環境計測に欠かすことのできないサンプリング、モニタリング、測定の簡易化、及びデザインについても述べられている。実際の測定については、室内環境、空気、水質、作業環境、廃棄物、土壌、汚泥など環境分野で考えられるほとんどの分野を網羅しているため、環境化学従事者、分析化学者以外に、建築、土木の人間にとっても非常に理解し易い内容である。また、最新の測定技術の紹介もされているのも嬉しい限りである。

本書は環境化学を学ぶ大学生、修士課程の学生の基礎本として役立つことは勿論のこと、環境計量士、技術士、公害防止管理者などの環境関連の資格試験を受験する人間にとってもお勧めしたい一冊である。

(鹿島建設(株) 技術研究所 建築生産グループ 主任研究員 武廣絵里子)